山 行 報 告 書

作成：2009年5月13日
愛知岳連　岡崎山岳会

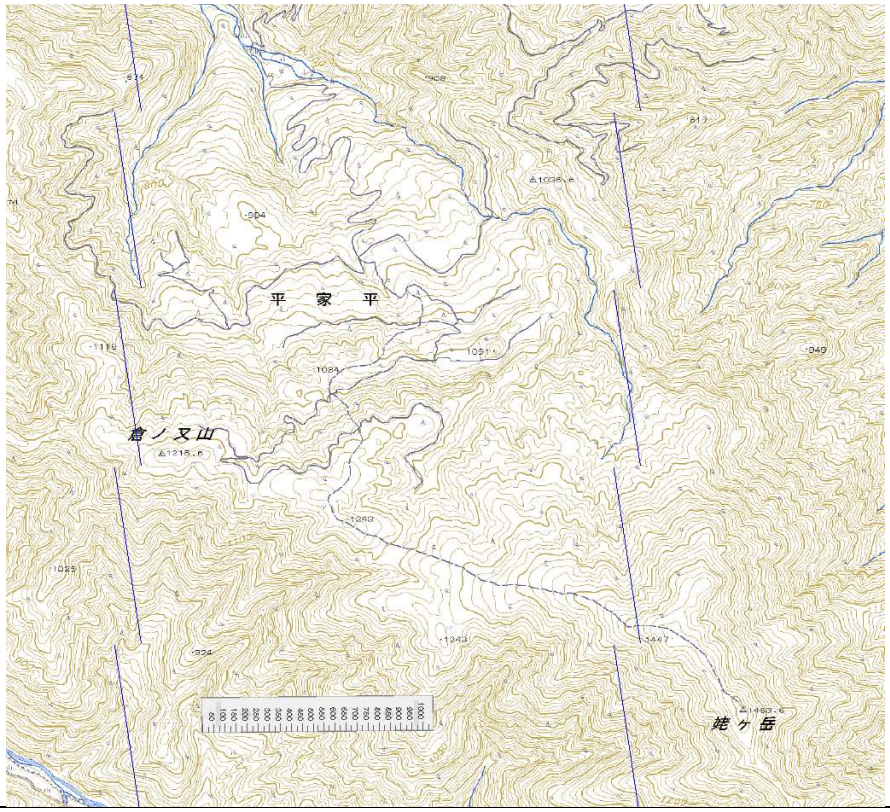
山名[山域]	姥ヶ岳(1454m)　[九頭竜川周辺山]	目的[方法]	お花見山行セリバオーレンと水芭蕉
期間	2009年5月10日（日）	形態	日帰りハイキング
参加人数	5人		

行動記録：

◇河合池運動公園P　5：00　＝　豊田東 IC　5：10　＝　長良川SA6：00．6：20＝白鳥 IC　6：50　＝0：30＝道の駅　九頭竜　7：20　＝R158　＝勝原駅過ぎて一つ目の信号「中休」左折＝佐開橋（真名川）を渡り　R157＝雲川ダム（巣原トンネル）手前で左折　巣原橋を渡って林道に入る＝0：50＝広場P・石橋　8：40　9：00　－平家平登山口　9：30　－　1：20　－水芭蕉群生地　11：10　11：20　－0：50－姥ヶ岳　12：10　12：40　－0：30　－水芭蕉群生地　13：10　－二つ目の林道を右へ 15 分　トチノキ広場　－0：50　－平家平登山口 15：00　－広場P・石橋　15：20　＝0：30＝大野市　＝平成の湯♨16:10　17：00　＝白鳥 IC18：00＝美濃加茂 IC　＝豊田東 IC 20：20　＝河合池運動公園P　20：30

概念図：

感想：とにかく沢山の花々との出会いがあった。忘れないうちにメモしておいた。以下
セイバオーレン・ユキザサ・サンカヨウ・エンレイソウ・ミヤマカタバミ・キクザキイチゲ・ミツバオーレン・イワウチワ・ハルトラノウ・ニリンソウ・ミズバショウ・タムシバ・ザゼンソウ・カタクリ・ヤマエンゲサク・ネコノメソウ・タチツボスミレ・シロスミレ・ホウノキノハナ・オオケノキ・フジ
　天然記念物の栃の木は、樹齢２００年と言われるだけあり、一見の価値がある。その前に広がる庭園には山で見た全ての花々が一同に見られ、手近かに楽しむにはよいスポットと言える。



日誌：早朝５時、若者２名、姥３名これから登頂するにふさわしいメンバー構成である。姥捨てにならぬようと用心しながらとジョークを交えながらO君の4Wトラックタイヤ仕様のワイルドな車に乗り込む。九頭竜の美しい山並みを車窓から眺めながら快適なドライブを楽しむ。計画書に丁寧にターニングポイントが書かれているが、分かりにくい。巣原橋はコンクリートのおんぼろ橋である。そこを渡って今回は平家平登山口まで車で行くことになった。ダートなガレ道を4Wの車を快適そうに運転するO君の意外な一面を発見。是非、ダートな道を運転したいそうなので誘ってあげてほしい。登山口からセリバオーレンの柔らかな緑のじゅうたんが続く。とにかくめったに見られない花々が、いとも手近に続々と現れてくるので驚きである。サンカヨウは後 10 日後ぐらいが花見頃のようである。とにかく至るところで見られる。セリバオーレンはブナ林辺りで楚々とした花の群落が見られた。この地味な花を好まれるM女の人柄がしのばれる。花の女王と言われるK女が「昨年より素晴らしい」と喜んでいた。本当に花の時期に合わせて登るのは至難の業であるが、今回は最高のタイミングであった。

　雪解けに芽生える水芭蕉も、少し小ぶりで本当に愛らしくたたずんでいた。山頂への道は残雪が残り、木々が倒れる中登った。真夏日が出るくらいの高温であったために遠望は余り出来なかったが、Hさんが同時間に登った（私達が登り始めたときにはもう下山でしたが）荒島岳、濃郷白山が間近かに見えた。帰りは平成の湯（500　円）に入り高速に乗った。途中　1 時間ほど郡上まで渋滞で運転手に苦労をかけた。2車線への開通が早く望まれる。頂上でのそうめんが暑さにうだった体を癒してくれた。（5　人分のそうめんとつゆを支度してくれたM女様・背負ってくれたO君様に感謝）また、頂上での午睡も格別であった。